

造影検査を受けられる方へ

■ 造影検査とは？

造影剤を静脈から注入し、臓器や血管を明確に描出できる検査です。通常では描出困難な小さな病変などでも、造影剤を使用することでより正確な診断が可能です。造影検査は診断上の必要性があり、安全に行なえると判断された場合に限り施行いたします。

■ 造影剤の使用について

特定の病気や体質で造影剤でより副作用が生じやすい事や病気が悪化したりする事があります。以下の項目に当てはまる方は申告して下さい。

○造影剤を使用してはならない場合

- ・ヨードに過敏症のある方
- ・重篤な甲状腺機能障害のある方

○原則として造影剤を使用しない場合（または慎重投与の検討）

- ・以前にヨード造影剤により副作用を生じたことのある方
 - ・気管支喘息、重篤な心障害、重篤な肝障害、重篤な腎障害、テタニー、マクログロブリン血症、多発性骨髄腫、褐色細胞腫
- 上記の場合は、造影剤による副作用が通常より高確率に発生します。



■ 副作用について

造影剤はまれに副作用が発生する場合があります。また、以前に造影剤を使用した検査を受け、副作用のなかった方でも副作用が起こる可能性があります。

- ・軽い副作用：約 100 人につき 3 人以下（3%以下）の確率で吐き気・動悸・頭痛・かゆみ・発疹・くしゃみ・悪心・じんましん等がでることがあります。
- ・重い副作用：約 2500 人につき 1 人（約 0.04%）の確率で呼吸困難・意識障害・血圧低下などが起こることがあります。このような副作用は、後遺症が残る可能性があり入院や手術が必要なこともあります。
- ・非常に稀に、病状・体質によっては約 10 万人につき 1 人（約 0.001%）の確率で、死亡する場合があります。

なお、造影剤を注入すると体がポカポカと温かくなることがありますが、これは造影剤と血管の浸透圧の変化によるものですので心配ありません。

■ 造影検査後について

造影剤のほとんどは尿として排泄されますので、特に水分制限のない方は水分を多めに取るようにして下さい。また、検査後 1 週間以内に吐き気・動悸・頭痛・かゆみ・じんましん等を感じた時は造影剤の副作用の可能性が考えられますので、病院にご連絡ください。